

Forest通信 令和5年 9

No.415

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

ジャコウアゲハ (アゲハチョウ科)



翅が白っぽく、ゆっくりと飛ぶ蝶。幅が10cm程で、翅が細長く、尾状突起も長い。雌の翅は、黄色かがかった白色で、雄は黒色。ともに後翅の縁は黒く、赤い斑点がある。雄は香水にも使われる麝香（じゃこう）のような甘い香りがする。

食草のウマノスズクサ類が生える森林や草原、河川などに見られ、東京付近では、年3回、5～9月頃に発生する。低い場所を緩やかに飛び、各種の花に訪れ、また、雌は食草を探す。ウマノスズクサ類には毒が含まれ、それを食べたこの蝶にも毒がある。そのため鳥に食べられる心配が少ないので、ゆっくりと飛ぶ。特定の植物を食べ育ち、その毒に守られているジャコウアゲハ。高尾山にあるウマノスズクサ類もこの蝶を育てている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

富ちゃん 皿ちゃんの

NO.76



髓のある樹木(6)

番外編

(なぜ火起こしには髓のある樹木が適しているのか)

今までこの欄で紹介してきた髓のある樹木はキブシなど数種類の樹木です。これらの木を先棒に使っているのは、火切り板と摩擦して両方から黒い粉が生じる。それが高温になってくると火種が出来る。ここで紹介した樹木を使用した場合何の問題もなく、次の火種づくりに向かうことができる。

火起こしは、どんな木でも行うことができる。試しに桜やスギ、ヒノキでも行ってみた。その時にどういことが起こったか。

火起こしをするときに、先棒を回転させて火切り板と摩擦させるのだが、回転するのは実は木の外側だけで、中心部は回転しないのである。その結果、鉛筆のように先の尖った状態になる。次に火種を作る作業に移る時に甚だ不都合なことになる。もとの状態に戻すためには先端を削るか、切って平らにしないといけない。あるいは、最初から先棒の中心に穴をあけておくしかない。

このような理由で髓のある樹木が火起こしの先棒に適しているか理解していただけただけではないかと思えます。(富)



髓のある木



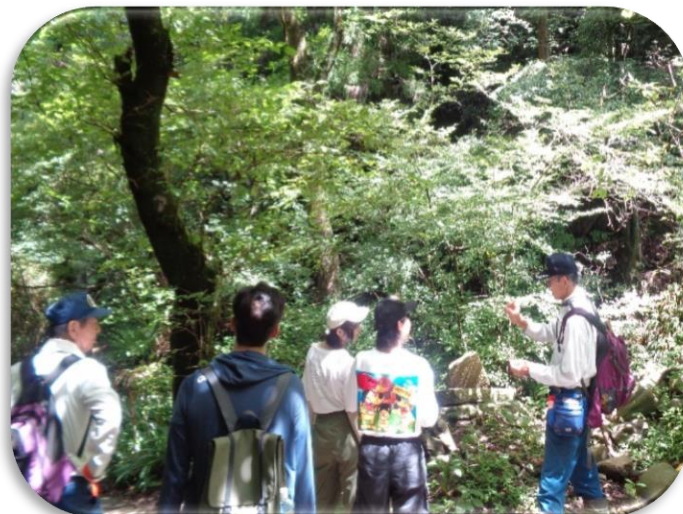
体験林業 昭和女子大学

「丸太切り体験などを学び地域の取組に生かす！」

8月10日（木）、昭和女子大学の学生2名と教員1名が、丸太切りの仕方や森林・林業に関する知識などを学ぶため当センターを訪れました。同学生は、将来は教職員を目指しており、今年の夏休みを利用して地域に集まる小学生数十人を対象に、丸太切り体験や森林に関する知識などを自ら小学生に教える役目をするとのこと。

丸太切り体験では、当センターが森林教室の拠点としている日影沢キャンプ場施設において、まずは選木の考え方、服装、手鋸の使い方、構え方、切り方のコツなど、特に安全に運用できるよう注意点を中心に学んでもらい、懸命に記録を取っていました。丸太切りの練習では、手鋸により輪切りを斜めに切ってしまうなど最初はぎこちなかったのですが、数回練習を重ねているうちに思い通りに自信をもって切れるようになっていました。

その後は、森林・林業に関する知識を学ぶべく同施設近くの林内において森林観察行い、森林の役割、針葉樹や広葉樹の特徴、草木が放つ独特の匂いや実の付け方など初めて聞くことが多く、職員の説明に興味深く関心を寄せていました。この体験は半日ほどでしたが、2週間後には学ぶ立場から教える立場になるとのことで、小学生に自信をもって伝えていただけたら嬉しく思います。（久）



この季節に見ることができる花



アキノキリンソウ



サラシナショウマ



リンドウ

「山の日」記念イベント

縄文時代の火起こし体験

8/11（金）は山の日祝日でした。

林野庁の組織の一端を担う高尾森林ふれあい推進センターでも、山の日になんだ何か特別なイベントをしようということで、「縄文式 火起こし体験」を実施しました。

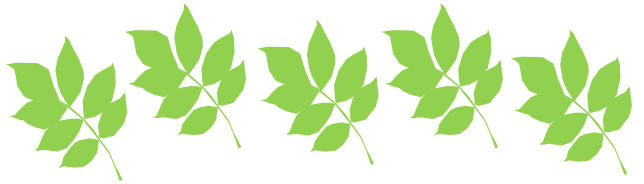
体験できる火起こしは、弓切り式、手もみ式、紐切り式の3種類です。なぜ火起こし体験かというと、「燃料」としての木材の利用の仕方を体感し、理解を深めて頂き、石油やガスと違い再生可能な燃料であることから、木材を燃料として利用することは、SDGsにつながることを発信するためです。

当日は熱中症アラートが出る程の気温で、午前中はなかなか参加者が来てくれませんでした。午後になると登山を終えた人であふれ返っていました。

参加者は火起こし体験が初めてで火がつく度に歓声が上がります。残念ながら定員いっぱいになって申し込みなかった方々も興味津々で見学していました。参加者の中には、「SDGsと森林についてもっと知りたい。」という方もいて意識の高い方が増えたように感じました。

この火起こし体験は、可能な限りたくさんの方々に体験して頂きたいと考え、大勢のフォレスト・サポート・スタッフの応援を得て実施することができました。

当日は、親子連れを含む30名の方々に参加して戴きましたが、火を扱うイベントなので事故を起こさないよう安全に配慮して実施する必要があり、全ての方々の希望に沿うことができなかったことについて、ご理解頂ければと思います。（岩）



火起こしの会場



スタッフによる火起こしのデモンストレーション



コツさえつかめば火を起こせるのだ！



火が点いた！

森の草木染展開催

鮮やかな色合いに染まった草木染展

8月24日～28日まで高尾ふれあい推進センター展示室において、森林インストラクター東京会の森の草木染グループが、「キッチンで出来る森の草木染展」を開催し、132名の方が見に来てくださいました。

普段は材監や木材に関するパネルなどが飾られている展示室が、この1週間はカラフルな色合いに染まったスカーフや手ぬぐい、暖簾や小物の作品、カバンなどが所狭しと飾られてまるで別世界へ来たような感じになりました。

見に来てくれた人たちに、草木染の担当者が懇切丁寧に作品の説明をして、作品展を盛り上げる役目をしていました。

訪れた人たちも「こんな手の込んだ作品に出合えるとは思わなかった」「草木染のすばらしい色と形に感動した」「ぜひ、草木染の体験をしてみたい、草木染の教室に通ってみたい」などの感想をいただきました。
(富)



編集後記

9月に入っても高尾は連日30℃越えの猛暑日が続いています。

高尾にお越しの際は、まだまだ熱中症対策も万全に!!



タマアジサイ

Forest通信 NO.415

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail:ks_takao_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・緑を守り